

合唱団ホームページアドレス <http://www.wiengifu.org>12
月号2017年12月1日
編集・発行/
ウィーン岐阜合唱団

音楽とは 横への感性なり！

岐阜の街 ウィーンの如く ^{おとたの}音楽し 作：音楽総監督 平光 保

飛騨 美濃交流会から

「2019年高山“第九”」開催へ！！

事務局 杉江 功

先般の飛騨高山で開催し大成功に終わった音楽交流会の結果、2019年12月に高山にてウィーン岐阜合唱団と高山・飛騨地区の合唱団や市民多数からなる大合唱団と、ウィーン岐阜管弦楽団メンバーに高山・飛騨の奏者を加えたオーケストラで、飛騨美濃交流の第九演奏会を行うことが決まりました！！平光先生も出席された10月のスタッフ会議でも、今後、団として高山第九に臨み、取り組んでいくとの決定がなされました。もちろん指揮は平光保先生です。今年、岐阜県芸術文化顕彰を受賞したわが団にとっても岐阜県の文化高揚に貢献できる大きなイベントになると思います。ぜひ、多くの団員で高山での“第九”を盛り上げましょう！！

当日は、高原のホテルに到着早々、さっそく平光先生の指導が始まりました。今回、交流会に参加していただき高山の混声合唱団withや大八コーラスの皆さんも加わって「青い山脈」「逢えてよかったね」の練習です。共に合唱を楽しむ者同士、自然と一つになって歌の輪が広がりました。高山からの参加者の中には平光先生の躍動的な指揮や菅原先生の素敵なピアノ伴奏の虜になった方もみえたよう。普段から素晴らしい先生方の指導を受けられることに改めて感謝です。

間もなく、中村隆夫さんの司会で交流会が始まりました。中村さんは今回の交流の準備を高山側で進めていただいた方です。音楽畑の元校長先生で、今も小中校の合唱指導で活躍されています。高山からはほかに、飛騨音楽界の重鎮で岐阜県芸術文化顕彰も受彰された倉野昌三さん、高山市民文化祭実行委員長の大萱真紀人さん、オペラ「天生（あもう）」を主宰された飛騨市議の澤史朗さん、高山市少年少女合唱団団長の藤沢裕さん、更に、倉野さんの教え子で今はウィーンを拠点に活

躍されている世界的テナー歌手水口聡さんもサブライズゲストで出席され、高山側の今回の交流会に対する強い思いが感じられました。

そして、それぞれの団が演奏発表を。withは少人数ですが楽器も交えた演奏。一人ひとりのクオリティは高く軽快な演奏を楽しませてくれました。大八コーラスは、ソロの三塚あけみさんの透き通った声がとても自然で、ピュアな合唱演奏でした。わが団は「第九Mのテーマ」「緑濃き森林の大地よ」そして「人道の桜」を披露。皆さん、真剣に耳を傾けていただきましたが、「はるかにスケールの大きな合唱！特に第九には感激、自分も歌いたくなりました」「人道の桜は感動で涙が出てきました」などとても好評でした。普段から大人数で歌えるわが団ですが、それが必ずしも当たり前でないことを再認識し、改めてウィーンで歌えることの素晴らしさを実感しました。

そして、ケーキバイキングの合間には、菅原先生やロサンゼルスから参加された朝比奈夫妻のピアノ演奏。なにより、菅原先生のピアノ伴奏で水口聡さんの迫力ある歌声は圧巻でした。水口さんは、高山第九でのテナーソリストも内諾されました！！

交流会の最後には、平光先生の指揮で「青い山脈」を、中村隆夫先生の指揮で「逢えてよかったね」を全員で合唱。中村先生の指揮もとてもしなやかで気持ちよく歌うことができ、刺激のある交流会となりました。

夜の宿舎、山久での懇親会にも高山から10人が参加され大いに盛り上がり、水口さんらは2次会まで一緒に繰り出すなど、今後の交流の一層の発展を予感させる一日でした。翌日の奥飛騨の紅葉も雨の中でしたがとても素敵でした。ぜひ様子はホームページをご覧ください。

楽しかった紅葉ツアー

岐阜本部 ソプラノ 赤堀 みどり



初めての参加、紅葉ツアーはあいにくのお天気でしたが、盛りだくさんで充実した楽しい楽しい2日間でした。

往きのバス内で夏の定演のビデオ鑑賞をしながら、「交流会会場のホワイトルンゼさん」に到着しました。雨の中、赤・黄・緑の木々が美しく迎えてくれました。このスキー場の位置する山は、歴史も深く由緒ある山だそうです。高山の中村隆夫先生の暖かく的確な紹介で交流会が始まり、「withさん」「大八コーラスさん」「ウィーン岐阜合唱団」と合唱が続き、朝日奈ご夫妻、菅原先生のピアノ、中村先生の教え子さんの天使のような歌声、そして高山出身でウィーン在住のテノール歌手「水口聡さん」の第一声にはホールが割れんばかり！3曲のアリアを歌っていただきましたが、もう少し

お聞きしたかった。

平光先生の指揮や菅原先生のピアノの虜になられた方が、沢山いらっしゃったようです。美味しいケーキも頂き、素晴らしい交流会となりました。

2019年には美濃・飛騨合同の第九を高山で・・との中村先生のお話があり、楽しみが又増えました。「お宿山久さん」での宴会には高山の重鎮の方々も参加して下さり、非常に盛り上がりました。飛騨牛のしゃぶしゃぶなど美味しいお料理も食べきれないほどでした。

翌日の新穂高は雨の中、残念ながらロープウェイの山頂ではほとんど何も見えませんでした。ヘリポートからの山々の美しさは見ているうちに雲の動きで景色がどんどん変わり感動しました。

帰途のバスでは「杉原千畝」の映画鑑賞をし、とても、とても楽しく有意義な紅葉ツアーでした。来年は参加しなくちゃ損、損ですよ！

杉江さんの企画力、実行力、そして凄い人脈に本当に感心致しました。

河田さんのサポート、先生はじめ打ち合わせに高山までお出かけ下さった方々、本当にありがとうございました。

私が、合唱団に入った訳・・・岐阜本部 アルト 山下 千恵子

この10月に入団させていただきました。私は合唱は中学の授業のみ、カラオケも好きじゃない。その私が今、歌っている。歌う事で気持ち良く、疲れやストレスが身体からドンドン出ていく。ウィーン岐阜合唱団に入って本当に良かった。また、廻りの先輩方も親切で色々励ましてくださいますので不安はありません。毎週の木曜日が来るのが楽しみにしています。

11月初め「団新聞に何か書いてください。」「入団の動機など何でもいいです。」と、言われて「はい」と、返事をした私ですが、改めて今考えると、なぜ私は合唱団に入団する事になったのだろうか・・・

飲食物や唾でむせるので、喉を鍛えたい。肺活量を増やし深い呼吸をして丈夫になりたい。声を出すことは笑う事と同じで、ストレス解消。脳の活性化が可能です。確かにこれらを願ってはいましたが、しかし、これは合唱の効能を調べた結果。今の私を表現するのに、ピッタリじゃないかと。後から付けた理由ですが。夢中になれる事を求めていた私に、ウィーン岐阜合唱団の記事をタウン誌で見つけました。9月初旬の事です。気になったのでその頁だけ切り取っておきました。

私が合唱団に入るきっかけは、今年の夏91歳で亡くなった母「はな子」が勧めてくれたからだと思います。いつも、誰が話しかけても笑顔で応えてくれる母は歌が大好きで、施設で合唱出来る事が楽しみにしておりました。白内障で目が見えなくなってからは、一日中、一人鼻歌。「この道」や「椰子の実」など歌っておりました。歌っていれば気分が落ち着くのか、歌が唯一の友でした。さらに認知症が進むと多くの歌は歌えず、ひたすら「春よ来い」「カゴメの水兵さん」なぜか「東京花笠音頭」は歌えるのです。笑っちゃいます。最後の方では、母に会に行くと私の事も分からず、会話もなく「こんにちは、はなちゃん」の後は、ただ、二人で歌っていました。その母が亡くなってからは歌の事は忘れていました。そんな折、淋しさが心の隙間に母の声と共に合唱がスーッと心に入って来ました。「歌はいいよ。」「一人で歌うもよし。」「大勢で声を合わせて歌うもよし」悩まず、くよくよしないで、さあ歌ってごらん。と・・・

追伸 この団新聞に書かせて頂いた事で、心の整理ができました。

私的な記事になり、お恥ずかしい限りですが読んでいただき、ありがとうございました。

フォーレ様と私の200日【その2】

～初心者の練習の工夫～

岐阜本部 アルト 藤田真智子

世界3大レクイエムの最高峰とも言われる「フォーレのレクイエム」この難曲に挑む私。

20年近くの歴史のある「ウィーン岐阜合唱団」に入団させていただいたお蔭の出会いです。毎週のパート練習、その方法の真意も理解出来ないまま、単に練習しているだけの数か月でした。勿論、声は出ません。楽譜も読めません。音階はドレミファソラシドの位置が解る程度。最初はひたすら聞いて・聴いて・聴きまくりました。練習のCD・オケ入りCD・フォーレのレクイエムと名の付く曲は手当たり次第といってもいいくらい聴きました。だんだんと、「Ⅰ」「Ⅱ」「Ⅲ」……と、旋律が解るようになり、一部は小声ながら歌えるようになってきました。そんな頃、伴先生の歌入りのCDが出ました。これは平光先生・伴先生の許可の元、バリトンの辻さんが編集して下さり希望者に有料配布していただいたものです。家に帰りそのCDを掛け放しで時間に関係なくいつも聴いていました。伴先生の声になぞって、ひたすら聴き、一緒に歌うことを続けました。アルトの旋律は難しくなかなか音が取れませんが、楽譜を見ながら全員で練習してみると、男声合唱の難しさ……びっくりしてしまいました。あんな難しい音程を歌いこなすテノール・バリトンの諸兄に本当に改めて敬服いたしました。演奏会での混声合唱は客席やCDで聴く経験のみ、これは合同練習での発見でした。

その他、私の勝手な練習法は次のようなものでした。

その① 毎日の通勤電車の中で、今時の若者もどきイヤホンでカッコよくボイスレコーダーを聞き楽譜を見ていました。でも、慣れないのでこのページが解らない。エイッ！ そうだ！ 受験を思い出し「単語帳」を買ってきました。楽譜の切貼り・PCで作った歌詞・訳詞等々貼り付け、単語帳に書いた歌詞と首ったけ……。大きな口を開けて耳から入る曲に合わせて歌詞をなぞっている私。それにしても、ボイスレコーダーによる練習の過程を辿ってみると、言葉の一つ一つ、母が子に口移しで教えるがごとく感じます。日本語の「あいうえお」英語の「ABC」を覚えるがごとくラテン語の歌詞をたどたどしく覚えていきました。

平光先生の厳しいお言葉「暗譜・暗譜」に背中を押され、歌詞を覚えようと「フリカナ」ばかり目で追っていたら、伴先生から「ラテン語はローマ字読みでいいからスペルを読んで」と、一語一語読み方を教わり、歌の練習か国語の授業か解らないようなレッスン風景もありました。

その② 歩く時もエスカレーターでもエレベーターの中でも人が少ない時には歌ってしまう。認知ばあさん?? 誰もが振り返って赤面しました。昔、愛知県芸術劇場の柿落し公演で来日したMETのドミンゴが歌いながら歩いていたのを目撃したことがありましたが、まさに、その気持ちでした。(ごめんなさい！ 天下のドミンゴさまと一緒にする気持ちでなんておこがましいですね……)

その③ 自宅での練習は毎朝晩の浴室、湯船の中は「脱力」の体験に最適。アンチョコをぶら下げてひたすら歌詞を覚えめました。鏡の前で「口は開いているか」「お腹は動いているか」「肩甲骨の具合」「丹田の具合」等々。教わったことを繰り返しチェックしつつ、これは一人暮らしの特権でした。

その④ 合宿の体験も高校生以来。諸先生の気迫が皆に乗り移った如く、内容の濃い2日間、特に伴先生は体調を悪くされての復帰、皆の心配する中本当に貴重なエネルギーを授かりました。6月に入っからの練習風景は、それまでと明らかに変化した感じを受け、私も皆さんに馴染めて嬉しい気分でした。練習できました。CDを貸しあったり仲間意識の高揚は素晴らしいものでした。

その⑤ 少し歌えるようになった7月中旬、夫の7回忌の時なんと彼の墓前で「レクイエム」の一部を歌い鎮魂の気持ちを捧げました。お寺の人もビックリ！ 型破りな私に天国の彼は呆れていることでしょう。

Requiem 総括：兎にも角にも初志貫徹、満足で自画自賛の今日この頃、鎮魂の響きは及第点とします。

この名曲、私が天界に逝くとき、奏でられますように！……舞台で思い、涙しました。

12~2月練習予定

練習時間は18:45~20:45です。(18:30には集合しましょう!!)

月 日	岐 阜	月 日	大 垣
—	—	12月 1日(金)	大垣市南地区センター
12月 7日(木)	長森コミュニティーセンター	12月 8日(金)	大垣市南地区センター
12月14日(木)	長森コミュニティーセンター	12月15日(金)	大垣市南地区センター
12月17日(日) 岐阜・大垣強化練習 長森コミュニティセンター 14:00~17:00			
12月21日(木) 岐阜・大垣合同練習大垣北地区センター18:30~20:00 オケ合わせ			
12月23日(土) 岐阜・大垣強化練習 岩野田北公民館 14:00~17:00(最終確認)			
12月24日(日) "第九"演奏会本番 長良川国際会議場メイン会場 14:00 開演			
1月11日(木)	長森コミュニティーセンター	1月12日(金)	大垣市南地区センター
1月18日(木)	長森コミュニティーセンター	1月19日(金)	大垣市南地区センター
1月25日(木) 岐阜・大垣合同練習 岩野田北公民館 18:45~20:45			
2月 1日(木)	長森コミュニティーセンター	2月 2日(金)	大垣市南地区センター
2月 8日(木)	長森コミュニティーセンター	2月 9日(金)	大垣市南地区センター
2月15日(木)	長森コミュニティーセンター	2月16日(金)	大垣市南地区センター
2月22日(木)	長森コミュニティーセンター	2月23日(金)	大垣市南地区センター

(1月25日 岩野田北公民館に変更になりましたので、ご承知ください)

ウィーン岐阜合唱団創立20周年記念

夢☆音楽パーティー

“岐阜県の偉人 杉原千畝氏の功績を讃えながら”

- 日 時：2018年2月25日(日)正午より(11時30分より受付)
- 会 場：岐阜グランドホテル“雪の間”
- 指 揮：平光 保
- 演 奏：ウィーン岐阜管弦楽団
- 合 唱：ウィーン岐阜合唱団・お客様と共に
- 会 費：13,000円(フランス料理フルコース・飲み物代含む)
- 申し込み方法：ウィーン岐阜合唱団 清水みち子さんへ 携帯：080-6911-9005

心の支え

最愛の夫は認知症です。昨年6月に徘徊が始まり、深夜に高い所から落ち、膝の手術、リハビリ、今は施設に入所し車椅子生活です。よく夫は「お母さん好き、大好きだよ」と、言ってくれていました。優しく、こまめな人でしたので、私は気楽さに慣れ、自立できないまま、一人暮らしとなりました。どう暮らしていったらいいのやら、いまだ自問自答の毎日です。

毎週、息子と施設に行きます。先日、夫は「今、どこに住んでいるの」と、私に尋ねました。「お父さんのいない家で、一人寂しく過ごしています。これから、どう暮らしていったらいいか、お父さん教えて……」と、お父さんに問いかけました。しばらく、私の顔を見つめ「ゴメンナサイね お母さん」と、言いました。

私は、夫にすがって思いっきり泣きたかったです。今秋で結婚6年目になります。今までの当たり前の生活が、どんなに幸せだったか、身にしみて思います。施設の夫は穏やかで、夢の世界にいるようです。私の89歳の誕生日も間近です。「お母さん好き、大好きだよ」と、言ってください。桜吹雪の舞う頃は、お父さんの92歳の誕生日。私は「お父さん好き、大好きだよ」と、語りかけたいと思います。私の心の支えは、お父さん……。笑顔のお父さんに会いたい。会いたい。会いたいヨ……。

愛知県在住 主婦